

ANNUAL REPORT 2009

アニュアルレポート 2009年3月期

Research, Service, Technology を追求していきます

アーレスティは、R・S・T〈Research〉〈Service〉〈Technology〉という三つの言葉の統合です。Rは単に研究・開発だけでなく、より一層お客様のお役に立っていくための創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点、そしてTはこのRとSを支える知識と技術を示しています。私たちは常に、より品質の高いResearch、Service、Technologyを追求し、さまざまな製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research（研究・開発）、Service（サービス）、Technology（技術）において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

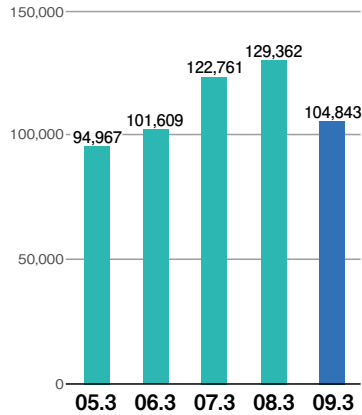
タグライン：アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

Contents

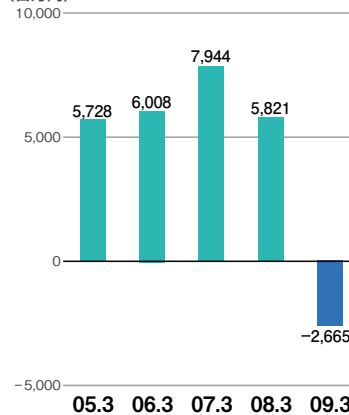
連結財務ハイライト	2	事業の概況	9
アーレスティの事業とあゆみ	3	グループネットワーク	13
株主・投資家の皆様へ	5	企業の社会的責任	15
マネジメントメッセージ	7	企業情報／株式情報	18

連結財務ハイライト

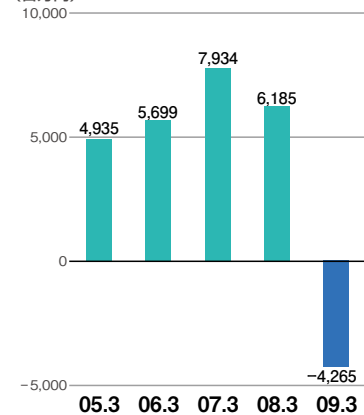
売上高
(百万円)



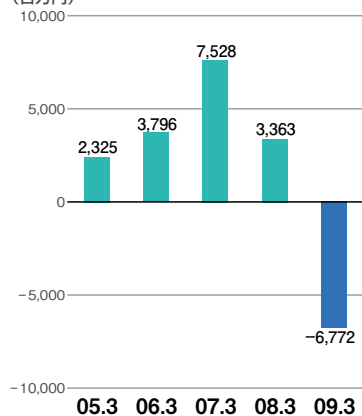
営業利益
(百万円)



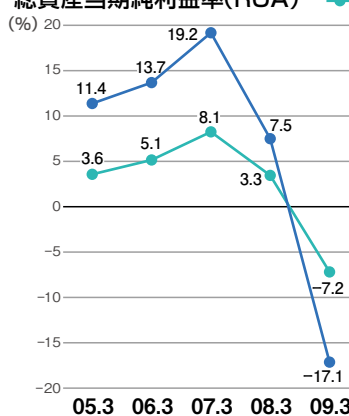
経常利益
(百万円)



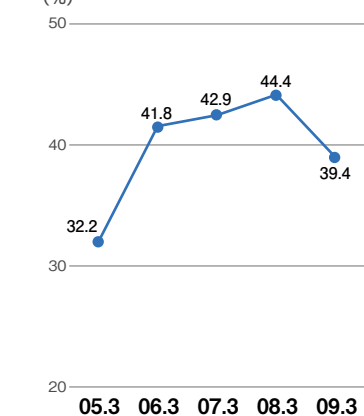
当期純利益
(百万円)



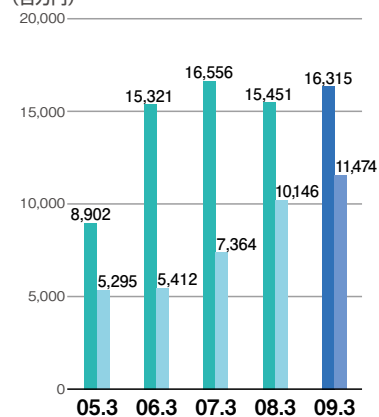
自己資本当期純利益率(ROE)
総資産当期純利益率(ROA)



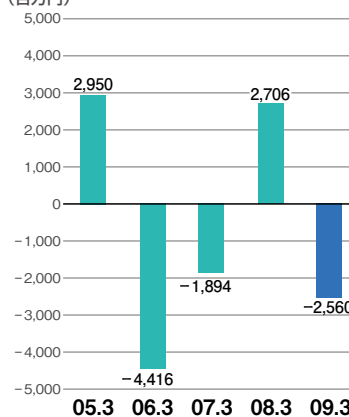
自己資本比率
(%)



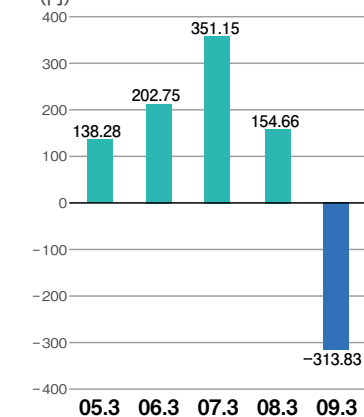
設備投資額^{※1} / 減価償却費^{※1}
(百万円)



フリー・キャッシュ・フロー^{※2}
(百万円)



1株当たり当期純利益
(円)



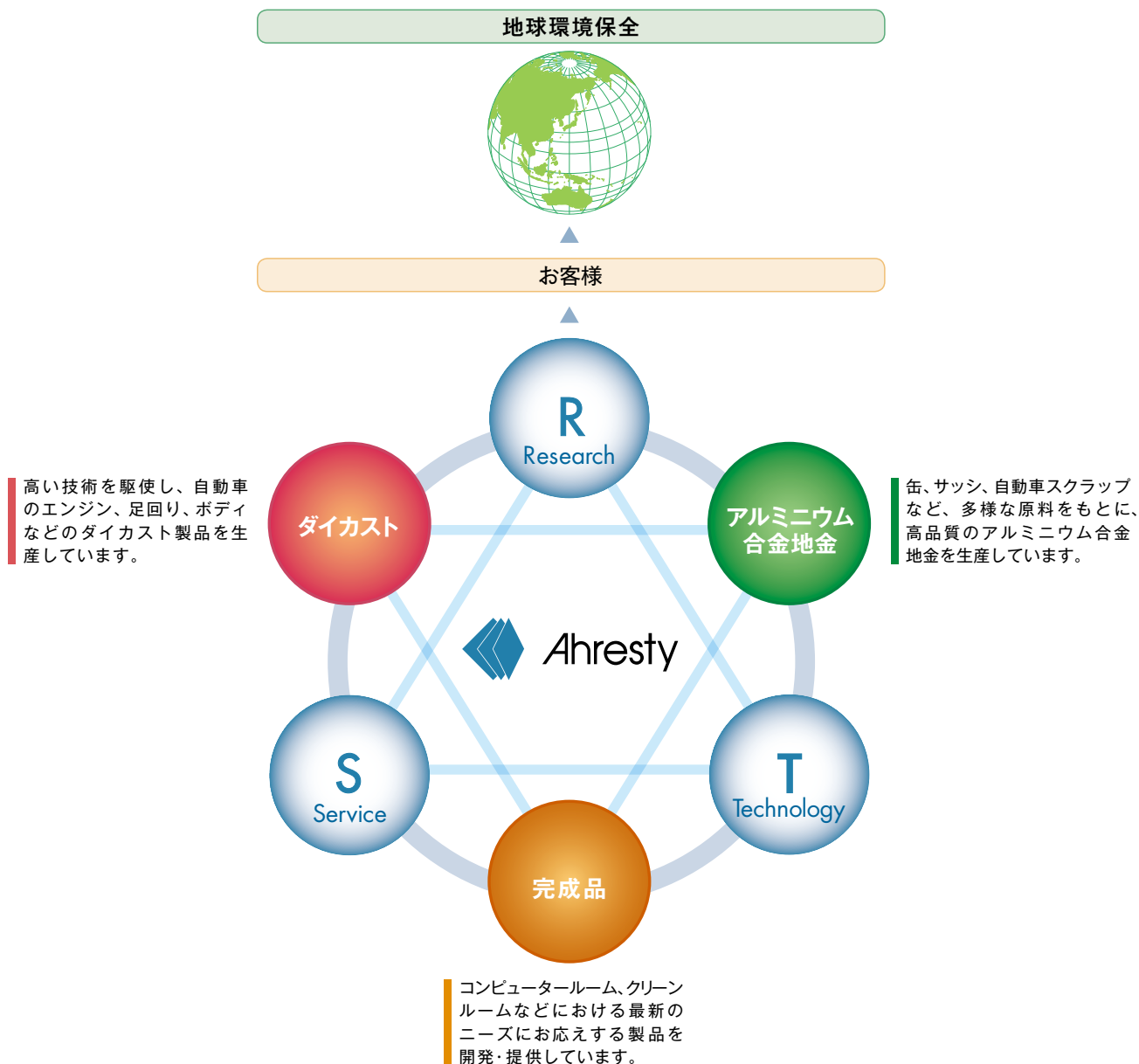
※1 金額は金型を含みます。 ※2 フリー・キャッシュ・フロー=営業活動によるキャッシュ・フロー - 設備投資額 (金型を除く)



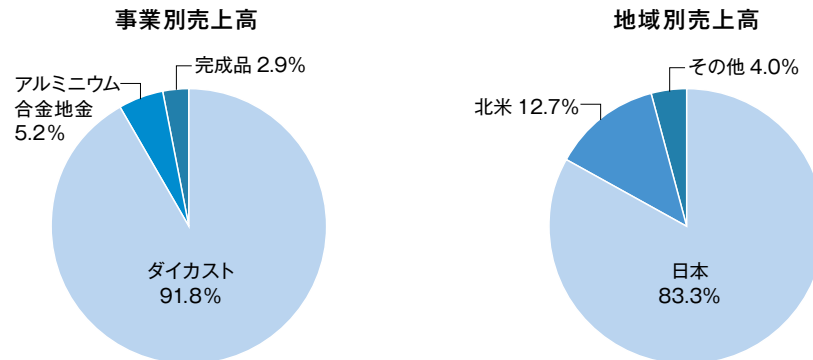
3つの理念を大切に、先進の技術と高い品質で お客様と社会の発展に貢献します

私たちは、社名に込められた Research、Service、Technologyという3つの理念を大切に、業界トップレベルの技術と設備、豊富なノウハウによって、時代のニーズを先取りした製品・技術の開発、高品質な製品の効率的生産、お客様に本当にご満足いただけるサービ

スの提供を目指しています。また、スクラップからのリサイクルが可能で環境にやさしい資源であるアルミニウムを取り扱う企業として、地球環境保全や資源リサイクルなどを通じて、社会貢献にも一層の努力を重ねてまいります。



売上高構成比



あゆみ

- 1938年 6月 ● 当社の前身志村アルミニウム株式会社創立
アルミニウム合金地金、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1943年 11月 ● 扶桑軽合金株式会社を設立、ダイカスト製品、アルミニウム砂型鋳物の製造を開始
- 1960年 3月 ● 株式会社日本精密金型製作所(現：株式会社アーレスティ ダイモールド浜松)を設立
7月 ● 扶桑軽合金株式会社浜松工場操業開始
- 1961年 10月 ● 扶桑軽合金株式会社の株式を東京証券取引所第2部に上場
- 1962年 4月 ● 東海精工株式会社(現：株式会社アーレスティプリテック)設立
- 1963年 3月 ● 京都ダイカスト工業株式会社豊橋工場(現：豊橋工場)操業開始
- 1971年 4月 ● 栃木フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ栃木)を設立
- 1972年 3月 ● 株式会社ダイテック(現：株式会社アーレスティ ダイモールド栃木)を設立
- 1976年 9月 ● 熊本フソー株式会社(現：株式会社アーレスティ熊本)を設立
- 1981年 3月 ● 株式会社ダイテック熊本工場(現：株式会社アーレスティ ダイモールド熊本)操業開始
- 1984年 7月 ● 扶桑軽合金株式会社熊谷工場操業開始
8月 ● 扶桑軽合金株式会社東松山工場操業開始
- 1985年 5月 ● バスカル販売株式会社(現：株式会社アーレスティ テクノサービス)を設立
- 1988年 6月 ● Ahresty Wilmington Corporationを設立
10月 ● 社名を扶桑軽合金株式会社より株式会社アーレスティに変更
- 1989年 10月 ● 株式会社アーレスティ'89年度デミング賞実施賞(中小企業賞)受賞
- 1997年 2月 ● Thai Ahresty Die Co., Ltd.を設立
3月 ● 株式会社アーレスティISO9001(建材)認証取得
株式会社アーレスティISO9002(ダイカスト・アルミニウム)認証取得
- 2001年 3月 ● 株式会社アーレスティISO14001認証取得
- 2002年 7月 ● Thai Ahresty Engineering Co., Ltd.を設立
- 2003年 8月 ● 広州阿雷斯提汽车配件有限公司を設立
10月 ● 京都ダイカスト工業株式会社と株式会社アーレスティが合併
11月 ● 第20回素形材産業技術表彰にて「経済産業大臣賞」受賞
- 2005年 3月 ● 阿雷斯提精密模具(広州)有限公司を設立
4月 ● バスカル工業株式会社と菅原精密工業株式会社が合併し、
社名を株式会社アーレスティ山形に変更
6月 ● 本社を東京都中野区中央に移転
- 2006年 6月 ● Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.を設立
9月 ● テクニカルセンター開設
- 2007年 1月 ● Ahresty India Private Limitedを設立



世界経済の減速を受けて

2008年度第3四半期からの急速な世界経済の減速は当社にも大きな影響を及ぼしました。過去にない営業損失と純損失を計上し、日頃ご支援を賜ります株主の皆様には期末無配当及び2009年度の配当も見送り予想という事態に陥った事を深くお詫び申し上げます。

自動車市場の急減速からお客様各社の生産は大幅に減少しました。ようやく市場の完成車在庫も適正水準に近づきつつあり一部には回復の兆しも見えて来ましたが、2007年度の水準まで戻るにはまだ時間を要するものと思われまます。

2008年度当社では、自動車生産の現地調達化に向けた海外生産拠点の整備を積極的に行いました。

また、国内では年末から需要の急減速に対し諸施策を行いました。

先ず海外生産拠点では

- インド工場が昨秋からミッション部品の生産を開始いたしました。小さな規模での立ち上がりですが、成長市場のインドで発展できると期待しております。
- 中国の広州工場では、工場拡張と第2工場用地取得をいたしました。これは2009年度以降の受注状況から生産能力不足を補う目的です。向こう3年間で約3倍の売り上げを予測しています。
- メキシコ工場は、一昨年秋に立ち上がりましたが、メキシコ国内の需要と新規の受注もあり、工場隣接地の確保、工場の増築を実施いたしました。

国内においては需要の急減を受けて

- 役員報酬の削減、管理職以上の給与削減、休業日設定、残業規制を実行しました。
- 勤務体制を週7日二直体制から週5日二直体制に変更しました。
- 早期退職優遇制度の時限導入などの人員削減により2008年度下期において約700名減少しました。
- 事務所の集約、子会社（ATCつくば）の解散、諸経費の削減などを実行しております。

2009年度は、特に上期において需要の低迷が継続するものと思われます。下期からの回復も緩やかなものと予測し通期では国内ダイカスト需要はピークであった2007年度の約7割と予想しております。需要回復の予

測はできませんが、長期的には拡大する海外の自動車市場でのダイカスト需要増加を予測しております。

当社では、近年積極的に展開した海外拠点、北米2拠点（アメリカ・メキシコ）、中国、インドを活用し日系自動車メーカーのみならず多くのお客様のお役に立ちたいと考えております。

引き続き皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
最高執行責任者 高橋 新

新中期経営計画

「人・品質・生産性・組織機能を革新し生存競争に打ち勝つ」

当社は、グループの長期的な経営の方向性を示した「10年ビジョン」をベースとしつつも、当面の厳しい経営環境下における勝ち残り、来るべき需要回復期における躍進に向けた体質改革を中心とした「新中期経営計画」を策定いたしました。

この方針を掲げ、目標の達成に向けて、全従業員一丸となって積極的に活動し全力で取り組んでまいります。

1 人の革新

現場リーダークラスを中心にマネジメント力を強化し、業務の効率化・質の向上に向けて自ら絶え間なく改善していく体質へと変革する教育を展開します。

2 品質の革新

品質システムの向上、顧客満足度の向上を目指し、すべてのプロセスで品質を自己完結する体質へと変革する施策を進めます。

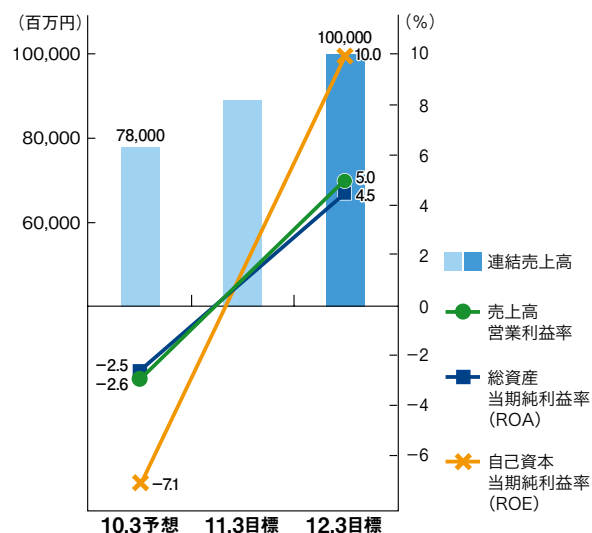
3 生産性の革新

生産性の向上、間接業務の効率向上の施策を展開し、リーンの体制で業界トップの生産性を目指します。

4 組織機能の革新

効率の良い組織と機能の実現のため、グループ標準の整備等の施策を進めます。リスクマネジメントの一環として、地震や新型インフルエンザを想定した事業継続計画の策定、事業継続マネジメントの構築を行います。

■新中期経営計画の目標値



各拠点の連携を強化し、均一で高品質な製品をグローバルで供給



取締役専務執行役員
品質保証本部長 小木 旭

2008年度を振り返りますと、国内では品質のレベルアップは出来ましたが、工場間ではバラツキがありました。

海外においてはアーレスティメヒカーナの量産立ち上げ時の品質トラブルが続き、お客様にご迷惑をおかけしました。原因は米国のアーレスティウィルミントンからメヒカーナへの生産移管にあたり、事前準備が不十分であったことによるものでした。一方で、アーレスティインディアの量産立ち上がり

は、スムーズに運びました。

2009年度の国内は、各工場間のバラツキを無くすために施策の妥当性について検証し、改善することにより効果をあげていきます。

海外拠点では新規品を多く抱えており、国内と海外拠点の連携が重要となっています。各部署との連携を強めることで生産前活動の一層の充実を図り、新規品の立ち上げをスムーズに行い、お客様のお役に立ちたいと考えています。

リーンな生産体制の構築で事業環境の変化に対応 更なる生産性の向上を目指す

2008年度からの3カ年方針として、海外拠点の生産拡大によるグローバル化と現場力の強化、そしてCO₂の削減を掲げ取り組んでまいりました。

しかし、昨年秋からの急激な景況の変化を受け、本年度からは、リーンな体制作りを方針として掲げ、環境変化に素早く対応できる生産体制作りと更なる生産性の向上を緊急的な課題として取り組んでまいります。

具体的には、国内の生産量が減少している中、勤務

取締役常務執行役員
製造本部長 林 禎一

体制や要員面で無駄の無いリーンな体制を作り労働生産性を高めていきます。同時に、ダイカスト及び機械加工における生産性の向上を一段と進め、競業他社の追従を許さない生産現場づくりを目指します。

一方、海外生産拠点は今後更に拡大が見込まれるため、アーレスティにおける技術・管理面での標準を整備し、海外拠点に対しやって見せて教える横串機能展開を行い、国内レベルと同等の生産が出来る現場を実現します。



グローバルな飛躍を期し、人材育成、標準化の推進で 強固な事業基盤を確立



取締役常務執行役員
管理本部長 古屋 茂

2008年度は下期の大幅な自動車減産による操業度低下により、収益性が悪化しました。急激な変化の中で、原価低減、経費削減の緊急対応を最優先の課題として推進してきました。一方、人材の育成も重要課題としてマネジメントの教育を主眼に推進してきました。また、財務面では資金確保ができました。

2009年度は大幅な需要減に応じた総経費の削減を収益改善推進室を設立して推進し、キャッシュフローの悪化に対応しグループ全体の設備投資の削減は

するものの、需要回復に対応した海外への前向きな投資を進めます。

さらに今後のグローバル展開に向け、グループ標準化の推進とグローバル人材の育成および間接業務の効率向上を図るなどの基盤を強化することにより強い体質の会社へと変革していきます。

環境対応車関連の技術・製品開発と 海外拠点での設計を推進



2008年度は上期と下期で開発環境が大きく変化しました。上期は多くの開発案件を同時にこなさなければなりません。景気の悪化に伴い、顧客の新規開発案件もかなりの絞込みがなされたので、中止、延期されたそれぞれの案件の技術的なまとめを下期の前半に行いました。下期の主な活動としてCO₂削減、コスト低減に関する重要案件の熟成に力を注いできました。

執行役員
技術本部長 三中西 信治

2009年度もすでに第1四半期が終わり、景気は依然厳しい状況ですが、地球環境に貢献するハイブリッド、ディーゼル分野での需要を見据え必要な技術、製品開発を進めていきます。

一方、既存の量産製品分野では、部品の海外調達が進んでおり、ダイカスト化設計、金型設計の海外展開に伴う仕組みの見直し、海外設計スタッフに対する教育を進めてきました。2009年度は海外での設計の実行と継続した教育を進めてまいります。

エコカー開発の新市場において 顧客志向の提案でビジネスチャンスを拡大

昨年来の世界経済悪化による自動車の販売不振が、当社の業績に大きな影響を与え、近年で最悪の決算報告となってしまいました。しかし、新車販売の市場が消えたわけではなく、自動車の実需は緩やかながら回復して来るものと考えています。

全世界的に環境規制が強化されてきており、自動車に対してもCO₂削減や燃費規制がますます厳しくなってきました。今後は、消費者からのニーズでもある環境への配慮、自動車の低燃費化、小型化、

低価格化などに対して、顧客である自動車メーカーへ提案しお役に立つことで、アーレスティが生き残っていくことができると考えております。これらに対応する新開発市場をビジネスチャンスと捉え、新市場においても長年培ってきた技術力とノウハウを元に、お客様のご要望に確実に応えてまいります。

執行役員
営業本部長 金田 尚之



トピックス

アーレスティインディア量産開始

2008年10月、アーレスティインディア（インド・ハリアナ州パワル）は、当初の予定通り量産を開始致しました。この製品は、自動車部品で同月に日系自動車メーカーに納入しております。



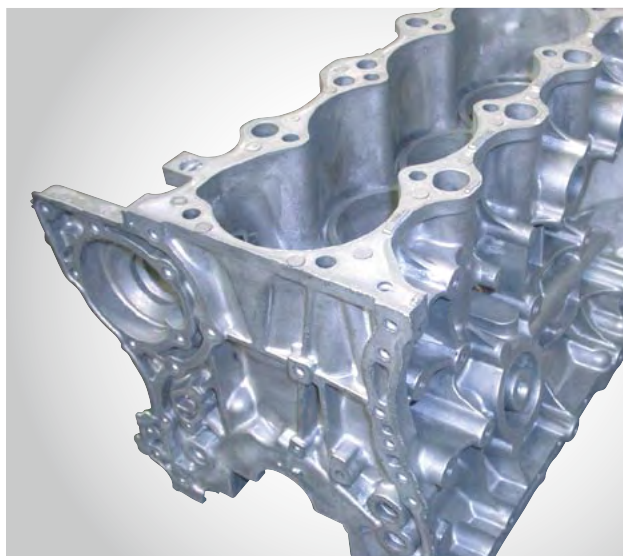
現在の設備は、ダイカストマシン3台（1,650トン2台、800トン1台）ですが、成長著しいインド市場に対応するため、2009年度におきましても設備の拡充を致します。日系自動車メーカーのみならず、すべてのお客様に品質の優れたダイカスト製品をお届けすることを目標に努めてまいります。

東海精工(株)は、 (株)アーレスティプリテックへ 社名変更致しました

2009年4月、東海精工株式会社（静岡県浜松市）は、株式会社アーレスティプリテックへ社名変更を致しました。アーレスティグループとして結束を高め、グループ全体の企業価値を向上させることを目的としております。プリテックとは、プレジジョンテクノロジー（precision technology：精密な技術）を意味する造語です。

ダイカスト

他社に先駆けて新技術を次々と開発 ダイカスト業界でトップレベルの信頼を獲得



アーレスティの主力事業はアルミニウムダイカストです。自動車産業の発展とともに事業規模を拡大し、売上を伸ばしてきました。

多様化するニーズに応える一方で、ダイカストのネック技術の原因解明を行ってきた結果、他社に先駆けて新技術を次々と開発。従来ダイカストでできなかったものづくりを可能にし、品質や生産効率を向上させるなど、ダイカスト業界での地位を確立しています。

今後も、アルミニウムダイカスト、マグネシウムダイカストにおいて、軽量化、リサイクルを通して環境保護に貢献できるよう、さらなる技術革新を目指していきます。

主要なダイカスト製品

アーレスティが生産するダイカスト製品の7割は四輪自動車の部品です。その他に、オートバイ、発電機や船外機部品なども製造しています。

- アルミダイカスト製品
 - ・ エンジン用
 - ・ トランスミッション用
 - ・ 足回り部品 など
 - マグネシウムダイカスト製品
 - 金型鋳物製品（グラビティーダイカスト）
- その他
- ダイカスト用金型
 - ダイカスト周辺設備
 - 中古ダイカストマシン再生販売

ダイカスト製品の特徴

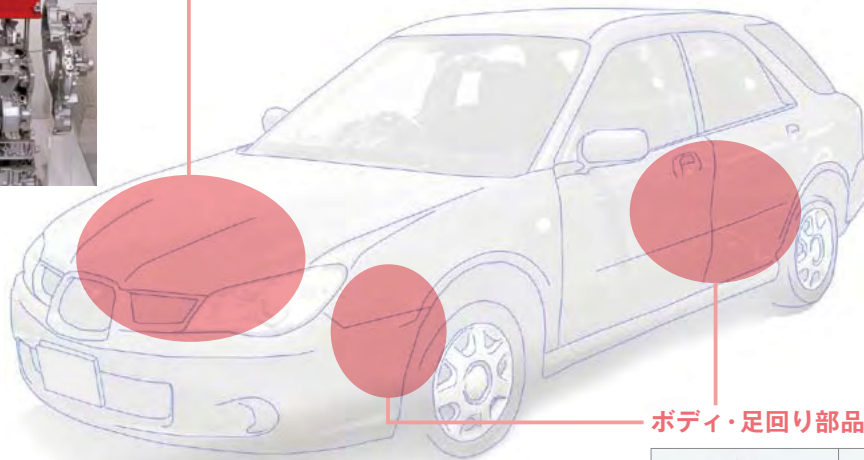
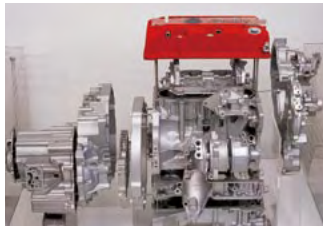
ダイカストのダイ(Die)は金型、キャスト(Cast)は鋳物を意味しますが、一般的な意味のダイカストは、金型を用いて高速、高圧鋳造した鋳物やその製法を表します。

ダイカスト製品の特徴は、生産性の高さと寸法精度に優れており鋳肌が美しいことです。

表面が滑らかな製品を製造することができるため、その後の加工処理が少なく済む利点があります。ダイカストのそのような特徴から複雑な形状で大量生産が必要な自動車部品などに多く用いられています。

パワートレイン

- エンジン
- トランスミッション



ボディ・足回り部品

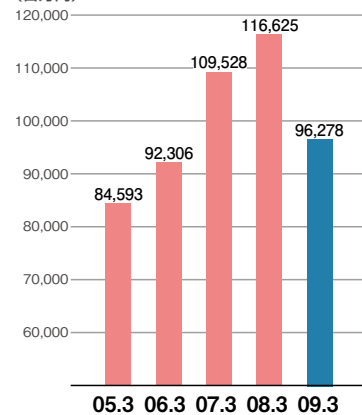


自動車のエンジン、トランスミッションはダイカスト製品が数多く採用されています。自動車の軽量化に伴い、ボディ・足回り関連部品のダイカスト化が進んでいます。

今期の業績報告

ダイカスト事業におきましては、米国発の金融危機に端を発する需要の減退が欧米から新興国にまで広がり、主要顧客である自動車メーカーの生産調整による急速な受注量の減少の影響で、売上高は96,278百万円（前年同期比17.4%減）となりました。収益面においては、原価低減、経費削減、生産の効率化に取り組んだものの、急速な受注減少に伴う操業度低下の影響により収益性が悪化し、営業損失は2,825百万円（前年同期は営業利益5,019百万円）となりました。

売上高推移
(百万円)



来期への展望

世界的な自動車の減産により当社の主要製品である自動車向け用途のダイカスト需要は激減しており、先行きは依然不透明で事業を取り巻く環境は一段と厳しい状況にあります。

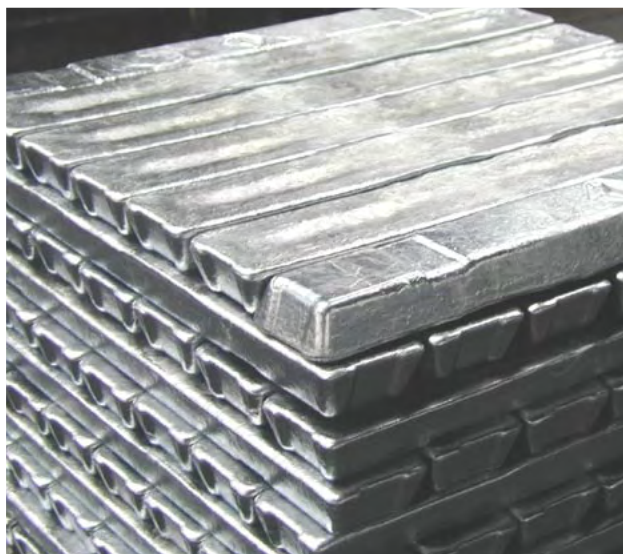
このような厳しい経営環境の中、生産体制の見直し、設備投資の抑制、経費削減等の収益改善のための施策に取り組んでおりますが、一部地域を除いて需要減少の影響は避けられない見込みです。

上期は、2008年度下期同様、大変厳しい状況が続くと見込まれますが、下期にかけて自動車メーカーの在庫調整も一段落し、徐々に回復していくものと見込まれます。

中長期的には、いずれ自動車需要は回復し海外を中心に軽量化によるアルミダイカスト採用増も加わり、ダイカスト需要は拡大していくものと見込まれます。

アルミニウム合金地金

業界トップクラスの設備とノウハウで、 多様な材料から高品質の製品を生産



アーレスティ熊谷工場は、1958年、業界初の日本工業規格（JIS）表示許可工場に認定され、1997年には、改正民活法におけるアルミニウム缶リサイクル施設として、全国で初めて通産省から認定を受けました。アルミニウム缶、サッシ、自動車の解体スクラップなど、多様な原料をもとに機械的性質に優れたアルミニウム合金地金を生産しています。アーレスティが持つ最新の設備、卓越したリサイクルのノウハウによって、工業用地金として活用されています。アルミニウムインゴットの月産能力は3,000トン。日本各地へと出荷され、高い信頼を得ています。

今期の業績報告

アルミニウム事業におきましては、第2四半期までは主力の自動車産業向け二次合金地金の出荷が堅調に推移しましたが、第3四半期以降の需要および地金市況が急落したことにより、売上高は5,484百万円（前年同期比28.8%減）となりました。収益面においては、第3四半期以降の販売量および地金市況の急落に伴い在庫削減や生産体制の見直しを図りましたが、生産量の減少に伴い収益性が悪化し、営業損失は88百万円（前年同期は営業利益395百万円）となりました。

来期への展望

アルミニウム事業におきましては、第1四半期にて鑄鍛製造各社の在庫調整がようやく一段落したものの、販売量は前年同月比で約50%と低迷状態が続いております。

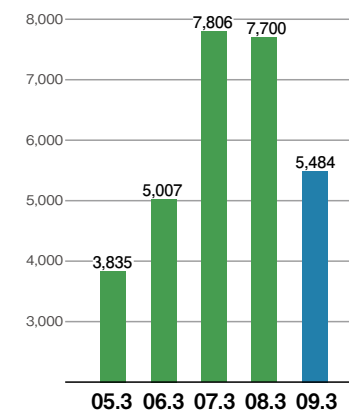
しかし、5月連休明けから景気の底打ち感が出てきており、また栃木や山形といった社内グループ工場の生産量が増加してきていることもあり、第2四半期の販売量は前年同月比で60%前後の回復が見込まれております。

一方、市中の原材料集荷状況は、景気低迷による自動車解体量や建築部材発生量の減少、また中国などの新興国への輸出

増加などを受け発生量・価格ともに依然厳しいものとなっております。また、輸入塊との価格競争もあり、当部門におきましては、第2四半期の前半までは採算性の面で厳しい状況が続くものと思われまます。

以上の内容から、収益面での好転が見込めるのは第2四半期後半以降となると予想されますが、引き続き生産性向上や業務効率改善活動に尽力し、収益改善を図るべく対応してまいります。

売上高推移
(百万円)



完成品

各方面で導入が進むフリーアクセスフロア時代のニーズに応じて次々と新製品を開発



1962年、日本初のアルミニウムダイカスト製フリーアクセスフロアを開発しました。以来、時代のニーズに応え、次々と新製品を開発しています。フリーアクセスフロアとは、コンピュータールームや放送スタジオなど、配線が多い部屋で、その配線が邪魔にならないように収納できる二重床のことです。最近是一般オフィス、病院、クリーンルーム、新しく建設されるインテリジェントビルは、すべて二重床です。アーレスティのフリーアクセスフロア『モバフロア』は、都庁舎（東京・新宿）、センチュリータワー（東京・水道橋）、ランドマークタワー（横浜・みなとみらい21）、関西国際空港、東芝四日市工場（三重）などで採用されています。

今期の業績報告

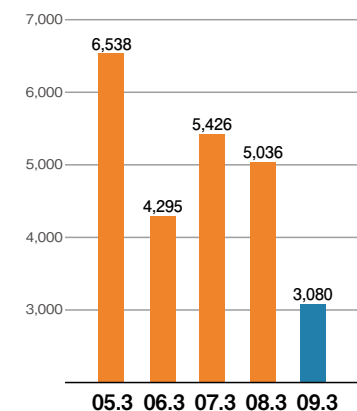
完成品事業におきましては、国内景気の悪化に伴い主力製品であるアルミパネルの受注を見込んでいた西日本地区での半導体関連の設備投資が中止または延期された影響が大きく、売上高は3,080百万円（前年同期比38.8%減）となりました。収益面においては、売上高の減少に伴う販売費負担増の影響により、営業利益は221百万円（同45.9%減）となりました。

来期への展望

完成品部門におきましては、世界同時不況による大手電機メーカーをはじめとした半導体関連企業の設備投資の延期・中止の煽りを受け、2008年度第4四半期より半導体メーカー向けクリーンルーム用モバフロアの販売に急ブレーキが掛かりました。

しかしながら、景況判断においては一部持ち直しつつあるなどの見方もあり、延期となった設備投資が再開される動きが出てきております。この設備投資の再開

売上高推移
(百万円)



による当部門の販売への直接的影響は、受注に結びついていたとしても2009年度第4四半期以降と予想しており、クリーンルーム用モバフロアの販売は依然厳しいものと予想しております。しかしながら、各企業の扱う情報量の増加に伴い、大手通信会社を中心にデータセンター構築への投資は堅調に推移すると予想されることから、コンピュータールーム用モバフロアの販売に注力したいと考えております。

世界中のお客様のニーズに対応するため、積極的にグローバル展開を推進しています

より早く効率的にお客様に製品を安定供給するために、アーレスティは積極的に海外展開を推進しています。アメリカ オハイオ州ウィルミントンに次ぎ、中国広州、メキシコ、インドにもダイカスト製造工場を設立し、順調に生産量を拡大しています。これまで培ってきた技術

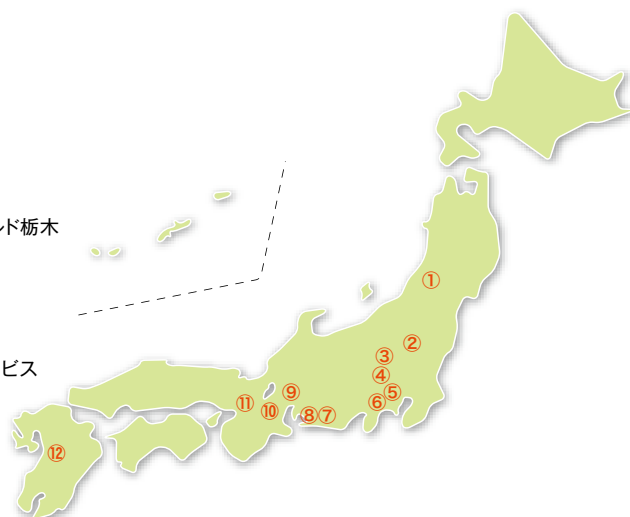
とノウハウをそのまま活かし、高品質な製品をグローバルで製造・販売しています。また、タイ、広州の金型拠点も含め、材料・金型・ダイカストなどすべての事業において相互補完体制を構築し、グローバルかつグループ・ワイドでの全体最適の実現を目指しています。



● 国内ネットワーク

アーレスティグループ

- ① (株)アーレスティ山形
- ② 栃木営業所
(株)アーレスティ栃木
(株)アーレスティダイモールド栃木
- ③ 熊谷工場
- ④ 東松山工場
- ⑤ 本 社
関東営業所
(株)アーレスティテクノサービス
- ⑥ 厚木営業所



- ⑦ 浜松営業所
浜松工場
(株)アーレスティダイモールド浜松
(株)アーレスティプリテック
- ⑧ 豊橋工場
テクニカルセンター
- ⑨ 名古屋営業所
- ⑩ 鈴鹿出張所
- ⑪ 大阪営業所
関西営業所
大阪管理センター
- ⑫ 熊本営業所
(株)アーレスティ熊本
(株)アーレスティダイモールド熊本

※2009年6月25日現在



●Ahresty Wilmington Corporation

1989年から北米の拠点として機能。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は1,500トン。

2627 S.South Street, Wilmington, Ohio 45177, U.S.A.

●広州阿雷斯提汽车配件有限公司

2004年度に操業開始。ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は950トン。

中華人民共和国広東省広州経済技術開発区永和経済区新豊路7号



●Ahresty Mexicana, S.A. de C.V.

2007年度操業開始。米国のAhresty Wilmington Corporationとの生産補完により、ダイカスト製品製造・機械加工・部品組付を担っています。月産能力は700トン。

Calle Industria Automotriz #20
Complejo de Naves Industriales la Zacatecana
Guadalupe, Zacatecas C.P.98600

●Ahresty India Private Limited

2008年度操業開始。海外第4の拠点としてダイカスト製品製造、機械加工を担っています。

Plot No. 194, Sector 4, Phase-II Growth Centre, Bawal, Rewari, Haryana, India



東松山工場
〒355-0812
埼玉県比企郡滑川町大字都25-27
TEL.0493-56-4421



熊谷工場
〒360-8543
埼玉県熊谷市御稜ヶ原284-11
TEL.048-533-5161



浜松工場
〒433-8520
静岡県浜松市中区小豆餅4-14-1
TEL.053-436-2111



豊橋工場
〒441-3153
愛知県豊橋市二川町字東向山80
TEL.0532-41-0511



株式会社アーレスティ山形
〒992-0832
山形県西置賜郡白鷹町大字荒砥乙65
TEL.0238-85-5233



株式会社アーレスティ栃木
〒321-0215
栃木県下都賀郡壬生町大字壬生乙4060
TEL.0282-82-5111



株式会社アーレスティ熊本
〒869-0521
熊本県宇城市松橋町浦川内36
TEL.0964-33-3111



テクニカルセンター
〒441-3114
愛知県豊橋市三弥町中原1-2
TEL.0532-65-2170

社会に貢献していく企業であるために… そのための努力を絶えることなく続けていきます

アーレスティはお客様のビジネスの発展に貢献していくことはもちろん、企業市民としての社会的な責任を重視した活動にも積極的に取り組んでいます。

環境保全活動への全社的な取り組みに加え、全社員一人ひとりが遵守すべき事項となる「アーレスティコンプラ

イアンス基本方針」と日常の業務遂行において遵守すべき基本的事項を定めた「アーレスティグループ行動規範」を制定。コンプライアンス委員会事務局を設置し、企業活動を行うにあたって適用される法令をはじめ、企業倫理、社内規定を遵守する体制を強化しています。



アーレスティグループ行動規範

- ① 法令等の遵守（規範の趣旨・遵守の責任に関する規定）
- ② 顧客・取引先との関係（自由競争と公正な取引等に関する規定）
- ③ 株主・投資家との関係（企業情報、インサイダー取引等に関する規定）
- ④ 従業員との関係（人権尊重、プライバシーの保護等に関する規定）
- ⑤ 会社財産・情報の管理（企業秘密、知的財産等に関する規定）
- ⑥ 社会との関係（寄付行為、政治献金等に関する規定）
- ⑦ 実施要領について

社員研修

お客様に、より質の高い技術とサービスを提供するために、QCサークル活動等を積極的に行い、技術と意識を高めていく努力を続けています。



工場見学の積極的な受け入れ

地域コミュニケーションの一環として、また環境活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくため、積極的に工場見学を受け入れています。



環境負荷をできるかぎり減らす努力を重ね、 「環境にやさしい企業」を目指しています

アーレスティでは、美しい地球環境を守るために、私たちが持つ技術の応用、環境に配慮した製品づくりなどの面から、一步一步環境保全活動を続けています。原料からつくる場合の約3%のエネルギーで再生できるアルミニウムは「リサイクルの優等生」と呼ばれ、自動車の軽量化を通してCO₂削減に貢献するなど、環境にや

さしい性質を持った金属です。

私たちは循環型社会を推進するリサイクル事業と、廃棄物ゼロ活動や省エネ・省資源、LCA（Life Cycle Assessment）などに積極的に取り組むことによって「環境にやさしい企業」の実現を目指しています。

ISO14001 認証取得

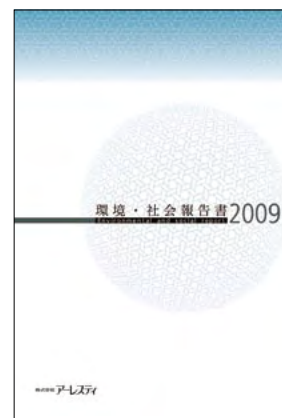


下記の事業所等で
ISO14001:2004 認証
を取得し、地球環境の保
全に貢献しています。

ISO14001:2004 認証取得

本社、浜松工場、東松山工場、熊谷工場、豊橋工場、
テクニカルセンター、
株式会社アーレスティ栃木、
株式会社アーレスティ熊本、
株式会社アーレスティ山形

環境・社会報告書2009

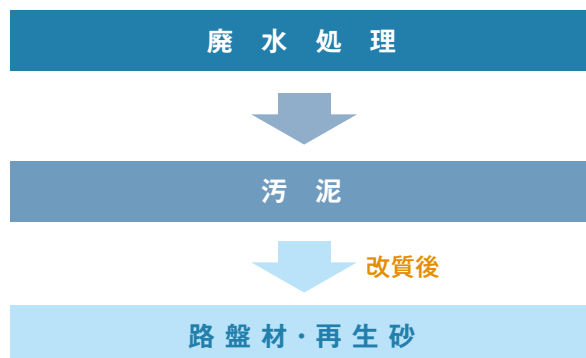


アーレスティでは、毎年、環境・社会報告書を発行しています。事業活動を通じた環境への取り組みを、ステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう努めています。

環境保全への配慮

廃棄物ゼロ工場を目指し、廃棄物再資源化に取り組んでいます。従来埋め立て処分されていた汚泥を、路盤材や再生砂にリサイクルできるようにしたことが一例です。

リサイクル一例



地域社会でのボランティア活動

アーレスティでは、地域との共生を目指した活動を重視しています。地域社会への貢献として、植林活動、里山づくりボランティアを積極的に行っています。





企業の社会的責任

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、開発力・技術力を基盤として軽量なアルミニウムの特性を活かした新分野の開発を進める一方、低コストの実現、高品質化による差別化を追求してきました。顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会という「すべてのステークホルダーから信頼される企業」を目

指すためにも、企業価値の継続的な向上が重要であることを認識し「競争力の強化」「透明性の高い健全な経営」の観点より、コーポレート・ガバナンスの充実を図りながら経営環境の変化に迅速に対応できる組織体制を構築するべく推進してまいります。

コンプライアンス基本方針

株式会社アールスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し、役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- ① 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- ② 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- ③ 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- ④ 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- ⑤ 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- ⑥ 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- ⑦ 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- ⑧ 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動をします。
- ⑨ 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動をします。
- ⑩ 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

企業情報

会社概要 (2009年3月31日現在)

商号：株式会社アーレスティ
設立：1943年11月2日

資本金：51億1,759万円
従業員数：【連結】3,937名 【単独】1,041名

役員

■取締役および監査役の氏名 (2009年6月25日現在)

代表取締役社長 最高執行責任者	高橋 新	取締役 常務執行役員	林 禎一	常勤監査役	熊木 勉
取締役 専務執行役員	小木 旭	取締役 常務執行役員	古屋 茂	常勤監査役	見目 康夫
		社外取締役	宮内 忠一	社外監査役	早乙女 唯夫
				社外監査役	志藤 昭彦

株式情報 (2009年3月31日現在)

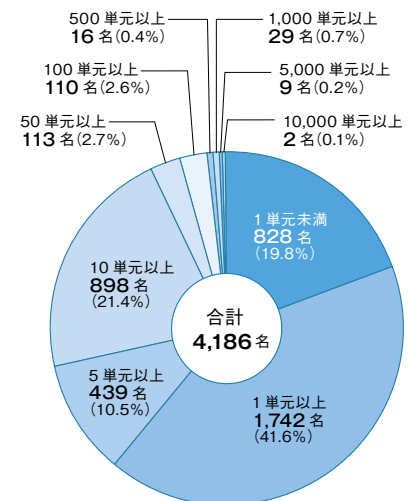
株式数および株主数

会社が発行する株式の総数：60,000,000株
発行済株式総数：21,778,220株
株主数：4,186名

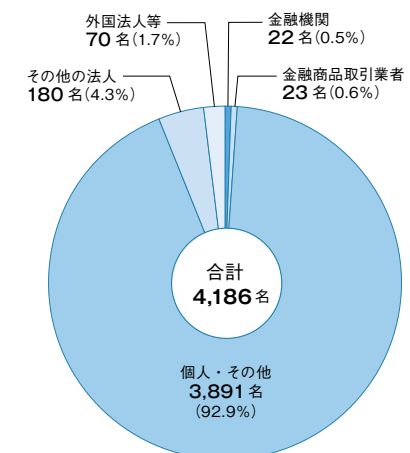
大株主数 (上位10名)

株主名	持株数(千株)
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	1,403
高橋 利江	1,075
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	790
株式会社三菱東京UFJ銀行	765
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口4G)	760
本田技研工業株式会社	672
日本軽金属株式会社	657
ザバンクオブニューヨーク ジャスディックノントリーティアアカウント	589
スズキ株式会社	565
株式会社みずほコーポレート銀行	544

所有株数別株主分布



所有者別株主分布





〒164-0011
東京都中野区中央 1-38-1
住友中野坂上ビル 11F
TEL.03-5332-6001
FAX.03-5332-6037
URL.<http://www.ahresty.co.jp>